



多様性の尊重

女性社員のキャリア開発支援

女性社員が仕事にやりがいを持ってキャリアを重ね、後輩女性社員の良きロールモデルとして活躍できるよう、女性社員のキャリア開発に向けた取り組みを実施しています。

例えば、NTT西日本グループで実施している、女性のキャリア開発を支援する研修に、積極的に社員を派遣しているほかにも社外向けのセミナーへ人材を多く派遣し、キャリア形成の応援をしています。さらに若手女性社員に対しては、キャリアプランを長期的に描けるよう、女性管理職と仕事の軌跡等を話せる機会を設けています。また、各支店においても、女性が自主的に女性ならではの視点で業務を積極的に改善していけるよう提案を進めていく、ワーキンググループを組織しています。



障がい者雇用の推進

多様な人材と働き方が共存することのできる企業風土づくりといった観点から、NTT西日本グループでは障がいのある方々の雇用を促進しています。

NTT西日本グループにおける障がい者雇用率は2011年6月時点で法定雇用率1.80%を超える1.82%となっており、さらなる雇用拡大を進めています。

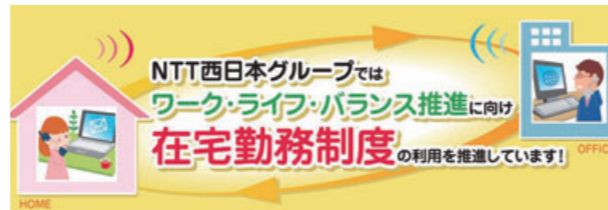
2009年7月に設立された、特例子会社のNTT西日本ヘルプでは、障がい者・高齢者向けにポータルサイト「ドリームアーク」を開発しています。このサイトはアクセシビリティに配慮し、障がい者の社員の意見をもとにして構築されており、利用者の立場で役立つ情報サイトをめざしていきます。今後とも本サイトを活用して、障がい者・高齢者向け情報発信を強化するとともに、雇用機会の拡大にもより一層力を入れていきます。

ワーク・ライフ・バランスの確保

NTT西日本グループでは、社員個々のライフステージや価値観などを尊重しつつ、社員のワークとライフのさらなる

充実に向けた取り組みを展開しています。具体的には「育児介護休職者への職場復帰プログラムの導入」「仕事と家庭を両立するロールモデル社員の紹介」などを実施しています。

さらにライフスタイルにあわせて利用可能な在宅勤務制度の利用促進のため、対話会の開催や、制度の利用方法や利用者の声を掲載したチラシを作成・配布し、社員の意識醸成に努めています。



次世代育成支援

NTT西日本では「次世代育成支援対策推進法」に基づき、社員が仕事と子育ての両立を図るうえで必要となる雇用環境を整備するため「行動計画」を策定し、その取り組み結果が認められ「次世代育成支援対策推進法」認定マーク（愛称：くるみん）を取得しています。

2011年4月からは第三次行動計画として、ホームページに掲載し社外に向けても情報発信を図るとともに、新入社員や新任管理者向けに、育児支援制度の活用や理解を深めるための対面研修を実施しています。また、休職からの復職者による対話会など、休職者が安心して復職できるような支援策を実施しています。



TOPICS
2010

パパセミナーの開催

男性の育児への積極的な参加を促すために、パパセミナーを開催しました。



積極的な参加者からの質問にパネリストも熱い議論を繰り広げました。



男性の積極的な育児への参画を！

2010年9月、男性も育児休職を取得しやすい環境づくりを促進するために、「パパセミナー」を開催しました。セミナーには、NTT西日本グループの子育て世代の若手男性社員約90名が参加し、男性2名と女性2名のパネリストが『育児休職取得パパの体験談～イクメンの子育てとは～』をテーマにディスカッションを行いました。

育児休職を経験しているパネリストからは、『育児を経験したことで「時間を効率的に使う能力」「複数のことを並行して処理する能力」「コミュニケーション力」などが増し、復職後の仕事にプラスになった』という体験談を聞くことができました。

また、参加者からは「育児休職に親近感がわいた」「育児休職を取得することが、仕事にもプラスに働くという考えは新鮮に感じた」「男性はもっと当たり前のように子育てに携わるべきだと思った」などの感想が寄せられ、全体の約8割がセミナー受講後に育児や育児休職に対する心境の変化を感じたと答えています。

NTT西日本グループでは、こうしたセミナーなどで男性

社員の育児に対する意識を高めるとともに、今後も男女を問わず積極的に育児にかかわれる職場環境を整えていくための取り組みを続けていきます。

社員の声 取得するためにやるべきことを考えて！

NTTビジネスアソシエ西日本
HRソリューション事業部
荒木 正太



育児休職というのは一見ハードルが高い取り組みのようにも思われがちですが、取得しようと思えば何とかできてしまうものです。取得できない理由を考えるのではなく、取得するために何が必要かを考えるようにしてください。

職場だけでなく、プライベートの機会も含めて自分の思いを真摯に伝えていくことで、職場の方の理解も得られると実感しています。